








小角材9本積層（継手なし）

断面	樹種	曲げヤング係数 kg/cm ²	曲げ強さ kg/cm ²
	スギ	46	330
	スギ	45	376
	ヒノキ	61	442
	ヒノキ	65	457

小角材4本積層（継手なし）

断面	樹種	曲げヤング係数 kg/cm ²	曲げ強さ kg/cm ²
	スギ	65	517
	スギ	71	513
	ヒノキ	98	816
	ヒノキ	99	789

註 試験機の関係で、材のスパンを1.5mとした。

成果

試験の結果、挽板によるもの角材集成（継手なし）については、農林規格JASを上回った結果を得た業界の企業化への利用促進のため、指導普及に努力したい。

10 木材の耐朽性に関する研究（IV）

野外試験杭の4年経過時の結果について

山田 式典

目的

木材防腐・防蟻剤（CCA）で処理した木材と未処理素材を野外に杭打ちして、これら木材の腐朽及びシロアリ害の進行経過を観察して、薬剤の防腐・防蟻効力について試験するとともに、木材間差、地域差についても比較検討を行うものである。本報告は、試験開始後4年経過時における結果の報告である。

概要

供試材としてヒノキ、スギ、ベイツガの3樹種

を選定し、CCA加圧注入処理したものと未処理素材のそれぞれの形状40×40×500mmの試験材を地上100mm残し処理材、未処理材と交互に地中に打ち込み、本県下及び宮崎県、沖縄県の一部の試験地、合計20試験地において経続試験を行っているものである。試験結果については、毎年、無作為抽出した試験材について、腐朽については重量減少率、蟻害については、建築研究所の判定基準に準拠してその結果を表示した。

成果

4年経過時における試験の結果は、腐朽・蟻害ともにヒノキ、スギ、ベイツガのいずれの樹種とも、処理と未処理間に大きな差が生じ、薬剤の効果の著しいことが確認出来た。CCA処理材は全試験地の重量減少率の平均で2%程度とわずかであるのに対して、未処理材はヒノキ、スギで35%、ベイツガで44%と高く、腐朽激しく回収不能となった試験材はベイツガで81%にも達している。又、防蟻試験についても、いずれの樹種とも、処理材はシロアリの接近を全く認めないか、わずかに接近を認める程度であるが、未処理材については、3樹種とも激しい被害を受け、原形をとどめないものが急増していることがわかる。なかでも、ヒノキ、スギに比して、ベイツガの被害が大きい傾向を示していることが確認出来た。

11 硼酸系薬剤による竹の防カビ試験

山田 式典

目的

硼酸系薬剤の防カビ効力については、その効果はあまりないとされているが、昭和50年度に、竹に対して、その効力のあるとする報告をみたので、その確認をする意味で、モウソウチクに対して、市販硼酸系の防虫剤について、竹に対する防カビ効力試験を行った。

概要

供試薬剤は、硼酸・硼砂混合水と剤として市販